

創立111周年事業プロジェクトが始動

■中目黒・代官山新キャンパス

着々と順調に進む建設工事

東京音楽大学は、創立111周年記念事業の中核として「中目黒・代官山新キャンパス計画」をスタートし、2019年4月の開校に向け、順調に工事が進んでいます。

美しい緑に溶け込む新キャンパスには、最高水準の音響効果が期待できる、使用用途に合わせた大中小の各種レッスン室が80室以上できるほか、最先端の録音・映像収録設備を擁するスタジオやオーケストラ・吹奏楽も可能なクリエイティブラボやカフェレストランなども完備する予定です。

これらの充実した環境により、本学の学生たちによる音楽の研鑽とその成果の発信がこれまで以上に盛んになり、加えて音楽を通じた社会貢献も活性化するものと期待されています。



コンサートホール(イメージ)
新キャンパス工事風景(2017年6月撮影)

コーポレートロゴ

TCM
Tokyo College of Music
東京音楽大学

TCM

新たなるスターティーへの決意表明

これまでの東京音楽大学では、論理的に統一・体系化された、ビジュアルコミュニケーション活動をなかなか図つてこられませんでしたが、本学の未来、次の100年に向けたメッセージのシンボルとして、このたび、正式なコーポレートロゴとコーポレートマークが決定されました。今後はルールに従ってあらゆるコミュニケーション活動において使用し、幅広く積極的に普及を推進することで、本学のアイデンティティをより確固なものになると期待されます。

東京音楽大学の英文略式表記である、「TCM」をベースにデザインされたコーポレートロゴは、「Tokyo College of Music」が、重なり合い、融合し、共鳴していく様子を表現したもの。本学が、音楽芸術のみならず、「様々な分野との垣根を払拭して多様性を許容」し、「現代社会と共に成長していく」ことを宣誓し、「音楽への尽きることない探求と研鑽を通じて、未来の新しい価値を創造し続けていく決意」を表現しています。

■創立111周年オペラ公演 歌劇『ラ・ボエーム』



栗国 淳 客員教授
Jun Aguni

広上 淳一 教授
Junichi Hirokami

金洞 祐子 教授
Yuko Kamahora

オペラ歌手への険しい道

金洞 今回の目的は、あくまでも授業の成果を披露することです。『ラ・ボエーム』は、19世紀末の初演以来、誰もが名を知るポピュラーな歌劇。そこには若き芸術家たちの希望と現実、喜びと悲しみが実に繊細に描写されています。学生たちは、作品から感じることを自らの声で表現し、オペラ作品を完成させるためには歌い手が何を担わなければいけないのか、身をもって学んでほしいと願っています。

栗国 オペラ歌手への道はとても険しいものです。演劇や舞踊の要素に加えて、「歌」「声」をも磨き上げなければなりません。しかし、声を創りあげるのに長い年月がかかり、卒業してからでさえも少なくありません。10歳前後で資質を見極められる役者やダンサーと比べて、デビューのタイミングに10年以上の隔たりがあるわけです。そのため、先生方が自身の実体験をもとに教示するアドバイスは、学生たちには極めて重要なものです。

『ラ・ボエーム』からの学び

金洞 声楽専攻の大学院生だけでなく、オーケストラの器楽専攻の院生、また学部生から付属幼稚園の園児たちまで、私はこの舞台を創り上げる一人ひとりが、音楽との向き合い方を見つけるきっかけになつてほしいと思います。そのため、驚くほど多くの先生方が隔離し、週2回、月曜日は音楽稽古、木曜は舞台・演技をともに教示するアドバイスは、学生たちには出稽古を続け、かつ本来の個別のレッスンもあり、その指導は本当に細部に至るまで行われているんです。

栗国 登場人物たちは演じる学生たちと同世代。また同様に芸術家として未来の扉を開こうと切磋琢磨する日々を送っています。そして作品には「夢や希望だけでは生きていけない。愛だけでは人を救えない」という、「現実の厳しさと人間の無力さ」が彼らの叫びとして描かれています。オペラでは仲間の一人が亡くなれば、日々熱心に指導にあたられている先生方に、作品の見所や意味をうかがいました。



2012年公演より

東京音楽大学は、1990年以来、5年ごとに周年オペラを公演してきました。来年、創設111年を迎えるにあたり、本年10月21日(土)・22日(日)に創立111周年記念オペラ公演「オペラ特殊研究」発表歌劇『ラ・ボエーム』全4幕を上演します。本番に向けて、日々熱心に指導にあたられている先生方に、作品の見所や意味をうかがいました。

東京音楽大学は、1990年以来、5年ごとに周年オペラを公演してきました。来年、創設111年を迎えるにあたり、本年10月21日(土)・22日(日)に創立111周年記念オペラ公演「オペラ特殊研究」発表歌劇『ラ・ボエーム』全4幕を上演します。本番に向けて、日々熱心に指導にあたられている先生方に、作品の見所や意味をうかがいました。

東京音楽大学は、1990年以来、5年ごとに周年オペラを公演してきました。来年、創設111年を迎えるにあたり、本年10月21日(土)・22日(日)に創立111周年記念オペラ公演「オペラ特殊研究」発表歌劇『ラ・ボエーム』全4幕を上演します。本番に向けて、日々熱心に指導にあたられている先生方に、作品の見所や意味をうかがいました。